

横 浜 市 会 第 1 回 会 議 録
定例会
【 速 報 版 】

議案関連質疑（令和8年3月24日）

速報版

- ・ この会議録は録音を文字起こしした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- ・ 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なもののため、今後修正されることがあります。
- ・ 正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横 浜 市 会

○議長（渋谷健君）これより質疑に入ります。

発言の通告がありますので、これを許します。いそべ尚哉君。

〔いそべ尚哉君登壇、拍手〕

○いそべ尚哉君 日本維新の会・無所属の会のいそべ尚哉です。会派を代表しまして市第156号議案副市長の選任の人事議案について全て市長に伺います。

まず大前提として申し上げますが、今回提案されている後任の予定者については、これまでの経歴や実績を踏まえ関係各所から高い評価を受けている方だと承知をしており、副市長としてふさわしい人物であると認識しております。この点は明確に申し上げておきます。

その上で、今回はあくまで個人の資質ではなく、このタイミングで本件人事議案を提案することが適切であったのかという市長の御判断について幾つか確認させていただきます。

現在市政の重要な動向の一つと言ってもよいのが市長の報道に関する第三者による調査です。この調査は現在継続中であり、市政に対する市民の信頼、さらには市役所組織全体のコンプライアンスの在り方そのものが問われている極めて重要な局面にあると認識しております。こうした状況を踏まえ、市政の信頼が問われているこの局面においては組織の継続性や説明責任を重視し、拙速な判断を避けるという選択肢も十分にあり得たのではないかと考えます。特にコンプライアンス体制の安定性を確保する観点から一定期間現体制を維持するという考え方もあったのではないのでしょうか。

そこで、コンプライアンスの統括責任者である現副市長の退任に当たり、第三者調査の終了までの間、例えば半年あるいは1年程度任期を延長する、あるいは暫定的な体制で対応するという考えはなかったのか、その理由を含めて伺います。

2点目として、市長の人事判断における認識についてですが、今回提案された現副市長の後任人事について、この提案は市長にとって本当に適切なタイミングであったのか率直に疑問を持っております。申し上げるまでもなく、今回の報道にある内容は個人の言動の問題にとどまらず市長による人事や組織運営の在り方そのものに関わる可能性を含んでいるものではないか、そのような状況の中で市長御自身がコンプライアンスを所管する副市長の後任人事を選定し議会に提案するという点について市民がどのように受け止めるかについてはより慎重な配慮が必要であったのではないかと考えます。また、報道等を踏まえれば、市長御自身の処遇については今回の報道にあった内容調査の影響を考慮し、給与の据置きという判断がなされていると承知しております。そうであるならば、御自身に関わる判断については一定の配慮をされながら、一方でコンプライアンスを所管する副市長の後任人事についてはこのタイミングで提案するという点に整合性の観点から疑問が残るところです。

そこで、市長は、本件第三者調査が継続している中で御自身がコンプライアンスを所管する副市長の後任人事を提案することについてちゅうちょはなかったのか、どのような認識で判断をされたのか伺います。

3点目として、人事提案を見送るという選択肢について、本市の市政の過去を振り返ると、副市長の後任が直ちに選任されず、一定期間空席となった例があったと承知しております。すなわち、必ずしも今回のように直ちに後任人事を提案しなければならないという前提が絶対ではないということです。また、先ほども申し上げたとおり、今回の一連の報道を受けて市長御自身の給与については引上げを見送り、据え置くという判断がなされたこととされています。これは市政に対する影響や市民の受け止めに踏まえた一定の配慮としての判断であると受け止めております。そうした判断をされているのであれば、同様に副市長人事についても第三者調査

の結論が出るまでの間提案を見送る、あるいは空席とするという選択肢も十分にあり得たのではないかと考えます。市政への信頼が問われている局面においてはあえて時間を置くこと自体が説明責任の一つの果たし方であったとも言えるのではないのでしょうか。

そこで、今回の副市長人事についても同様に、第三者調査の結論が出るまでの間提案を見送る、あるいは空席とするという判断を行う考えはなかったのか、伺います。

4点目として、コンプライアンス体制の引継ぎについて、今回の人事は単なる人事の入替えにとどまらず、現在進行中の第三者調査や市政全体の信頼回復に直結する重要な意味を持つものと認識をしております。特にこれまで現副市長が担ってこられたコンプライアンスの最高責任者としての役割は今まさにその重要性が最も高まっている局面にあります。こうした中で後任の副市長がどのような形でその責任を引き継ぐのか、また、現在進められている第三者調査との関係性においてどのような位置づけとなるのかは市民の関心も高い点であると思います。コンプライアンス体制は形式ではなく実効性が伴って初めて信頼につながるものです。今回の人事が体制維持にとどまるのか、それとも信頼回復に向けた再構築となるのか、その点が問われています。

そこで、提案された後任の副市長は現副市長が担ってきたコンプライアンスの最高責任者としての役割を引き継ぐのか、併せて、現在行われている第三者調査に関するトップとしての業務も引き継ぐことになるのか、市の考えをお伺いします。

以上4点答弁をお願いし、質問を終わります。ありがとうございました。(拍手)

○議長(渋谷健君) 山中市長。

[市長 山中竹春君登壇]

○市長(山中竹春君) いそべ議員の御質問にお答えいたします。

市第156号議案について御質問をいただきました。

伊地知副市長の任期の延長についてですが、伊地知副市長から任期満了となる3月末をもって退任したいとの申出を受けておりましたため、後任としてふさわしい新たな副市長を選任することといたしました。

コンプライアンスを所管する副市長を選任することについてですが、市政運営を滞りなく進めていくことが極めて重要ですので、そのような観点から後任の副市長としてふさわしい人材を選出することが必要だと考えまして御提案をさせていただいているものであります。

副市長の人事議案をこの時期に提案したことについてですが、令和8年度は新たな中期計画を策定してスタートする重要な年となります。区局の壁を越えて本市全体として様々な重要施策を切れ目なく推進していく上で、現行の副市長4名による体制が不可欠であると判断いたしました。

コンプライアンス体制の引継ぎについてですが、第三者調査に係る業務は後任の総括コンプライアンス責任者が引き継ぐこととなります。このたびの人事議案につきましては、そのような役割や責任を担うことも念頭に、これまでの経験や実績などを踏まえて適任であると判断した人材を選出して、議会に御提案をさせていただきました。

以上、いそべ議員の御質問に御答弁を申し上げます。

○議長(渋谷健君) 以上で質疑は終了いたしました。